



夏休みの成果を発表

総領放課後子供教室夏休み発表会・8/30

No.6

総領自治振興センターで、総領自治振興区主催の総領放課後子供教室夏休み発表会が行われ、地域住民25人が参加しました。

同教室の児童31人は夏休みの期間中、栄養の学習や弁当作り、やじろべえの工作など、さまざまな体験活動を行ってきました。

この日は、活動の成果として、体操・なわとび・俳句・ダンスや、戦争のない平和な世界を願った平和メッセージなどを発表しました。また、地域の方々と一緒に、ペットボトルを使った手作りのカスタネットを鳴らしながら「それ行けカーブ」を歌うなど、児童たちにとって、地域住民との貴重な交流の機会にもなりました。



▲夏休みの成果を堂々と発表した

地域の歴史を後世に伝えるために

口和自治振興区「郷土史講座」・9/6

No.5

口和自治振興センターで、郷土史講座が開催され、27人が参加しました。この講座は、広島県埋蔵文化財調査室の山田繁樹さんを講師に迎え、「知られざる口和の歴史に触れる！」と題して行われ、参加者は遺跡の発掘調査で判明した口和地域の旧石器時代から古墳時代の歴史について学びました。

口和自治振興区は、口和地域の歴史を後世に伝えていくことを目的に、「くちわ文化財マップ」を作成しています。同自治振興区の清水孝清事務局長は「今回の講座で学んだことを生かして、分かりやすいマップを完成させ、歴史学習や観光紹介など多くの現場で活用していきたい」と話していました。



▲参加者は口和地域の歴史について学んだ

大自然の中での熱き戦い

ひろしまクロスカントリー大会・8/19

No.2

道後山高原クロカンパークで、第18回ひろしまクロスカントリー大会が開催されました。

西城バレーボールスポーツ少年団の黒田さくらさんと迫想菜乃さんの元気はつらつとした選手宣誓で幕開けし、北は茨城県から南は熊本県までの、1歳から86歳の選手2,003人が出場し、健脚を競いました。

4部門で大会新記録が出るなど熱戦が展開される中、多くの声援が上がっていました。

その他、参加者は広島県実業団招待選手のサイン会やお楽しみ抽選会などで交流を深めていました。



▲選手はスタートの合図で一斉に駆け出した

全国に向け力走

全国小学生クロスカントリー研修大会広島県予選会・9/23

No.1

道後山高原クロカンパークで、第20回全国小学生クロスカントリー研修大会広島県予選会が広島陸上競技会主催で開催されました。この大会は、小学5・6年生8人（男女各4人）から構成されるクラブチームの各選手が、1.5キロメートルのコースを走り、チーム上位の選手3人の記録の合計で順位が決定されます。

当日は、天候にも恵まれ澄み切った秋空のなか、参加者は芝生のコースを全力で駆け抜けました。福山市から大会に参加した児童は「緊張したけど楽しかった。また、来年チャレンジしたい」と話していました。



▲芝生のコースを全力で駆け抜けた

保育園児とお年寄りの交流

東城町八幡地域で交流会・8/24・29

No.8

東城町八幡のぼんぼこ山保育園で、園児と地域の健康増進サークル「飯山にここフィットネス」の参加者による交流会が行われました。この交流会は、世代間交流と参加者の健康増進などを目的に、毎月開催されています。

この交流会では音楽療法士を講師に迎え、一緒になって遊んだり、楽器の演奏を楽しんだりしました。また、誕生日会も一緒にを行い、祝ってもらった園児は大変喜んでいました。

同保育園の竹川順子園長は「この交流を通してお年寄りは園児から元気もらい、園児はお年寄りと触れ合うことでさまざまなことを感じ取って学んでいて、お互いに良い影響を与え合っていると思う」と話していました。



▲誕生日会の様子

汗を流して地域が一つに

ソフトバレーボールリーグ戦・8/24・28

No.7

庄原市体育協会（高野支部）などが主催する第19回地域ふれあいソフトバレーボールリーグ戦が高野小学校体育館などで開催されました。

13チーム138人が二つの部門に分かれて参加し、決勝トーナメントでは見事に下湯川チームと和南原チームが優勝しました。会場内は夏の体育館とあってうだるような暑さでしたが、どの選手も暑さに負けず好プレーを続出していました。

参加した井ノ本勝彦さんは「高野に移住したばかりで知り合いが少なかったが、ソフトバレーを通じて知り合いが増えた。地域が一体となって繰り広げた熱い戦いに参加できてうれしい」と話していました。



▲好プレーが続出

博物館×水族館 連携イベント

公開講座・比和8/19・宮島9/2

No.4

比和自然科学博物館は、クジラの化石の展示など、昔は中国山地が海だったことを伝える一環として、宮島水族館との連携イベントを行いました。比和自然科学博物館では、宮島水族館スタッフによる干潟の生きもののふれあい体験を、宮島水族館では、比和自然科学博物館スタッフによる化石発掘体験を行いました。

比和自然科学博物館で行った講座には170人が参加し、宮島水族館で行った講座も早期に募集定員に到達するなど、両講座ともに大盛況で、参加者はそれぞれ普段できない体験を楽しんでいました。

比和自然科学博物館で行った講座の参加者は「なじみのない干潟の生きものに触れることができ楽しかった」と話していました。



▲宮島会場の様子



▲比和会場の様子

迅速かつ的確な操法を披露

平成29年度広島県消防ポンプ操法競技大会・9/2

No.3

「平成29年度広島県消防ポンプ操法競技大会（小型ポンプの部）」が広島県消防学校で開催され、庄原市消防団を代表し庄原方面隊が出場しました。

庄原方面隊の選手は、多くの観客のほか、応援に駆けつけた庄原市消防団員約150人と選手を支えた家族が見つめる中、連日の厳しい訓練によって培われたチームワークと、迅速かつ的確な操法を披露し、出場23チーム中13位の成績を残しました。

操法終了後、庄原市消防団の岡原恭昭団長は選手に対し「上位入賞はならなかったが、庄原市消防団として立派な操法だった。今回の経験を生かし、消防団をけん引する人材になってもらいたい」と激励の言葉を掛けました。



▲訓練の成果を發揮